学校の危機管理（集中講義）　　阪根

9月24日（火）9:30から、講義を開始します。

講義資料は以下の Web ページで取得できます。

http://sakane.g2.xrea.com/mysite1/entrance4.html

PDF のパスワードは「naruto」です。

広島大学の集中講義（危機管理）は、一部資料（演習レポート等）以外は、ペーパレスで実施します。

なお、対面授業（2024年度は C307）で実施します。

予定

① 9月24日（火）オリエンテーション、総論、課題の説明（SHELL モデル）
② 9月25日（水）講義（危機管理各論）
③ 9月26日（木）課題演習（SHELL モデル）…各自10部コピーして持参のこと
④ 9月27日（金）課題演習（SHELL モデル）、講義（危機管理各論）、まとめ

＊いずれの日も、9 時 30 分から開始します。
＊演習課題の資料作成（24 日、25日の講義終了後）は各自で行います。その時間を確保するため、講義は 15 時すぎには終了します。

もし、台風等の緊急の状況の場合は、急遽オンライン（Zoom）を使います（念のために事前に周知します）

Zoom ミーティング（阪根研究室）
ID　207 411 8445、パスワード 480077

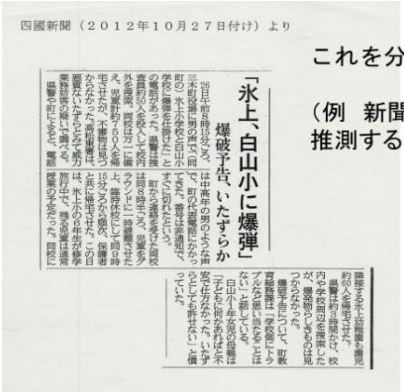
https://zoom.us/j/2074118445?pwd=QlM1RnRuaXY0aXFORjUwYlRYcldTUT09

詳しくは、対面授業で説明しますので、パソコンかタブレットを持参ください。

演習では以下の資料を作成します。

SHELLモデルの形式　（阪根改）
①事案の概要
（見出しをつけて、その概要を説明する）
②原因（結論付けられたもの）
③背景・制約（実態や状況から）

④Sから見た教訓
⑤Hから見た教訓
⑥Eから見た教訓
⑦L（他者）から見た教訓
⑧L（当事者）から見た教訓


四國新聞（２０１２年１０月２７日付け）より

「氷上、白山小に爆弾」

爆破予告、いたずらか

26日午前8時15分ごろ、三木町役場に男の声で「氷上小学校と白山小学校に爆弾を仕掛けた」との電話があった。両校は万一に備え、児童約750人と、氷上小学校に隣接する氷上幼稚園の園児約60人を帰宅させたが、不審物は見つからなかった。

これを分析した例

（例　新聞記事から推測する）

SHELLモデルの課題

教職実践力高度化コース [redacted]

【新聞記事見出し】「氷上，白山小に爆弾～爆破予告，いたずらか」（四國新聞 H24.10.27）	
事案の概要（簡単に）	10月26日午前8時15分頃，三木町役場に男の声で「氷上小学校と白山小学校に爆弾を仕掛けた」との電話があった。両校は万一に備え，児童約７５０人と，氷上小学校に隣接する氷上幼稚園の園児約６０人を帰宅させたが，不審物は見つからなかった。
原因	・悪質ないたずらとみて，威力業務妨害の疑いで調べている。
背景・制約	・氷上小学校は，幼稚園が隣接している。 ・氷上小学校も白山小学校も中規模校であるが，氷上小学校は近年住宅が増え，児童数が急激に増えている。 ・氷上小学校の校区には，代々住んでいる地元の住民と，新しく入ってきた住民が混在しており，田畑や資材置き場などで子どもが遊んで地域の人に迷惑をかけることが多々ある。 ・氷上小学校は，６年生が修学旅行中で，残る児童は通常授業の予定だった。白山小学校も６年生が校外学習だった。（両校とも校長不在） ・電話は，町の代表電話に番号非通知でかかってきた。 ・町教委総務課は「学校側にトラブルなど思い当たることはない」と話している。
Ｓから見た教訓	・不審者・火災・地震対策のマニュアルを参考にし，避難指示が出たときの対応を共通理解しておく。 ・緊急自動車の誘導以外に，保護者への児童引き渡しの誘導も共通理解しておく。 ・緊急連絡メールシステムへの全家庭の加入をめざす。
Ｈから見た教訓	・迎えに来た保護者の自動車がうまく流れるような通路を確保する。 ・校舎に入れないときのメール送信の手段を確保しておく。 ・児童が速やかに校舎から避難できるよう，出口の設置をなくす。
Ｅから見た教訓	・学校周辺に住宅が増えてきているので，そちらへの避難勧告や，道路の封鎖なども検討する。 ・報道関係者が勝手に取材をしたり写真を撮ったりできないように，門扉開閉を徹底する。
Ｌ＜他者＞から見た教訓（町教育委員会）	・学校との連絡の取り方を決め，避難に使う交通手段の確保をする。 ・避難所への水や食料の差し入れについて，マニュアルを作っておく。 ・不審な電話がかかってきたときの対応について共通理解しておく。 ・学校近辺の地域住民への避難勧告の方法を検討する。 ・報道機関への対応の窓口を明確にし，一本化する。
Ｌ＜当事者＞から見た教訓（学校）	・情報の共有化を図り，避難する際の対応を全校で徹底する。 ・保護者が迎えに来られない児童の避難方法を決めておく。 ・連絡が取れない家庭への対応について共通理解しておく。 ・児童の心のケア（不安感などへの対応）を十分に行う。 ・いたずら電話など，人の迷惑になる行動についての指導を徹底する。 ・報道機関への対応の窓口を明確にし，一本化する。

提出課題例　　学生番号（　　）氏名（　　）

これまでの学校事故や事件を SHELL モデルで分析します。

SHELL モデルの作成（新聞記事の事件や事故でも、実際にあった事案でも構いません。なお、講義資料内に参考例があります。）

【タイトル】新聞の見出しなど	
事案の概要	簡単にまとめる
主たる原因	主たる原因を推測する
背景・制約	実際の学校現場を考え、どんな背景があったか、対応に制約されたものはないかを推測する
Ｓから見た教訓 Ｈから見た教訓	ソフトウエアから（例えば、マニュアルなど） ハードから（例えば、施設など）
Ｅから見た教訓	環境から（例えば、職員室の雰囲気とか学校周辺など）
Ｌ（他者）からみた教訓	周囲の人的面から（例えば、上司・同僚や教委、地域など）
Ｌ（当事者）から見た教訓	事件や事故の当事者（例えば、怠慢やヒューマンエラーなど）

（注）A4 両面で作成のこと（１ないし２枚で作成）